

音で元気 にする仕事

音楽療法士になる

音 音楽療法と出会って、音楽の活動をするなかでわが子の成長を発見して「この子には本来の自分の人生があるんだ」と気づきました（ダウン症児の母） 目に見えない音楽というものを使って、目には見えない心に働きかける。それが音楽療法士の仕事なんだと思います（音楽療法士） 音楽療法は「できること」に目を向けて本人をとりまくみんなが成長できるものだと感じています（脳性麻痺の子の母） 現代社会で増大するストレスの悪影響が音楽療法によって改善され、免疫力の回復に役立つとしたら、これほどありがたいことはありません（医療研究者） 太鼓は世界の人の心。太鼓が丸いのは地球を表わしているから。その音を聴いて心躍るのは、そこに自分の心があるからです（セネガル／パーカッションist） 音楽はいいねえ。

楽 いいし、気持ちが明るくなる。友だちも増えましたよ（リハビリ教室参加者） 音楽を使った活動の中では、子どもたちのいろいろな面が発揮されて、本来の姿がよく見えるんです（小児科医） 音楽療法はとても科学性の高い脳リハビリの方法ではないかと思います。音楽する脳のネットワークは原始的でタフなんです（脳神経外科医） 情動からアプローチできる音楽療法は患者さんの負担にならないので、他のさまざまな治療と結びつけられると思います（言語聴覚士） 自分のほしかった音、大好きな音楽を見つけた瞬間の感動は、障害をもつ人もプロの演奏家

も同じだと思います（ピアニスト） 失語症の方が歌として言葉を発する姿を見て「楽しみながら言葉を使う」という、音楽療法の真髄を見た気がしました（介護老人保健施設長） たまたま障害をもつ人たちのイベントに出会い「もっと手に優しい楽器を作ろう」と思いました。長年「音」

を追求してきましたが、楽器作りには違う視点もあると気づかされました（楽器メーカー社長） 音楽療法はアートですが、医療で使うためにはサイエンスが必要です。日本の音楽療法には医療関係者も入っていますので、さらに可能性が広がっていくことでしょう（日野原重明・日本音楽療法学会名誉理事長）

日本音楽療法学会 JMTA
Japanese Music Therapy Association



音楽には、人の心や身体、人との関係づくり、ものごとへの気づきなどの状態に働きかける力があります。音楽療法は、その音楽の力と人のかかわりを用いて、音楽療法を受ける人を多面的に支援します。言葉を使った治療が難しい方にも有効な療法、それが音楽療法です。



音楽療法の目的は、次のようなものです。

- ・子どもの発達支援
- ・健康維持、介護予防
- ・病気や事故後のリハビリテーション
- ・学習支援
- ・リラクゼーション
- ・認知症の症状の緩和
- ・痛みの緩和
- ・QOLの向上、心のケア



音楽療法、または音楽療法士に興味を持たれた方は、日本音楽療法学会事務局、または同学会認定校（※1）にお問合せください。

日本音楽療法学会 JMTA
Japanese Music Therapy Association
<http://www.jmta.jp/>
 日本音楽療法学会事務局
 ☎ 03-5777-6220 (平日 9時~17時)
 FAX 03-5401-0337 (常時)
 〒 105-0013 東京都港区浜松町 1-20-8
 浜松町1丁目ビル6F



音楽療法は、専門の養成機関で学び、資格を取得した音楽療法士によって実施されます。日本音楽療法学会では「日本音楽療法学会認定音楽療法士」(※1)(※2)の資格を与えています。

（※1）
 認定に必要なカリキュラムを備えた認定校の卒業生に認定試験の受験資格が与えられます。詳しくは学会ホームページでご確認ください。

（※2）
 現在、3000名近くの日本音楽療法学会認定音楽療法士が誕生しています。